



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 271

2019/08/01

今月の一枚

今月のイベント

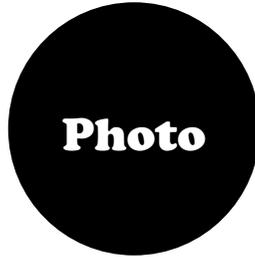
参加者募集

GREEN COLUMN

01. ヘイケボタルを育む水田
02. 版画の魅力をちょっと紹介②



今月の一枚



「農業用水路のホタル」

表紙写真・文／鬼丸和幸

美幌町内では、約 30 か所で野生のヘイケボタルを観察することができます。その 1 つである郊外にある農業用水路では、7 月初旬から成虫が現れ始めました。ひと昔に比べ、この用水路において、その数や生息範囲は激減しましたが、特に蒸し暑く、無風で湿っぽい夜など、農業用水路の周りを飛び交う姿が見られます。

この日は少し風もあり、気温 12 度と少し手がかじかむくらいに肌寒い夜でしたが、農業用水路法面の草の上で、静かに光るヘイケボタルの姿を見ることができました。

Event. 今月のイベント

企画展「絵を描く心～岸本裕躬作品より」 ～10月20日(日)

「夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル」 ～8月31日(土)

プチ工房「マーブリングでアート作品をつくろう」 8月7日(水),9日(金),14日(水)

Information. 参加者募集

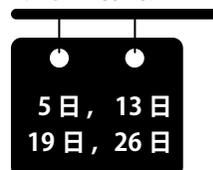
夏だ！昆虫グッズ！無料レンタル

●～8/31(金)9:30-17:00 ●美幌博物館1F受付 ●無料 ●受付で名前と連絡先を記入すること。開催を記念して「美幌町のクワガタムシ図鑑」を500部限定で無料配布しています。

プチ工房「マーブリングでアート作品をつくろう」

●8/7(水),9(金),14(水)10:00-12:00,14:00-16:00 自由に入室。作品ができたなら終了 ●美幌博物館1F講座室 ●材料費(300円) ●久保田結衣(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

ヘイケボタルを 育む水田

写真・文／鬼丸和幸



ホタル類であるヘイケボタルは、かつては多くの水田で身近に見られていましたが、農薬の影響や水田自体が激減したこともあり、現在では、美幌町内を含め、全国的にもヘイケボタルを水田で見ることが、極めて難しくなりました。

石川県の山間に広がる水田では、今でも多くのヘイケボタルが見られること知り、7月初旬、現地を訪ねてきました。

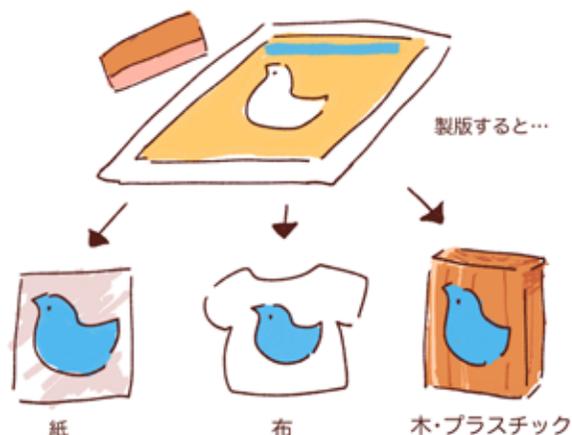
この水田農家さんは、「少しでも多くの方々に、安全なお米を食べて欲しい」と、完全無農薬・無化学肥料でお米を作り、「蛭米」として販売されています。無農薬・無化学肥料に切り替えてから、自然発生的にホタルが増え、22ha（280枚）全ての水田でヘイケボタルが、そして水田に隣接した川では、ゲンジボタルが多数見られるようになり、毎年多くの方々がホタル観賞

に来られるまでとなりました。雑草が少しでも生えないように紙マルチシートを土壌表面に張ったり、稲の汁を吸うカメムシ類が多く発生する時期と重ならないように、稲の生長時期を遅らせたり等、様々な工夫をされています。なかなか採算が合わず、多大なご苦労をされているということでしたが、「水田でホタルが見られることの意味を知ってほしい。そして、ホタルを介した新しい稲作農業の在り方を提案していきたい」とおっしゃっていました。

ヘイケボタルは、発生期終盤でしたが、水田上空を点滅しながら飛び交い、時折ゲンジボタルも一緒に飛んでいる光景が見られ、素敵な夜を経験できました。

版画の魅力を ちょこっと紹介②

絵・文／久保田結衣



今回は、2018年12月号の続きで、木版画とシルクスクリーンについて紹介します。

木版画は板を彫刻刀で削り、凸面にインクを乗せて刷る技法です。小学校の図工にも用いられ、私たちにとって馴染みの深い版画ではないでしょうか。原版があれば半永久的に残せる、そして大量印刷が可能であることから、1300年代にキリスト教徒が普及の目的で用い、世界的に普及しました。日本における木版画は、江戸時代後期の浮世絵の登場によって、身近な芸術として親しまれるようになりました。印刷物なので安く入手ができます。また、芸能人が題材となった役者絵は、庶民の間で需要が増え、技術は一気に普及と進歩を遂げました。

シルクスクリーンは、目の細かい布にインクを乗せて刷る技法で、1930年代から商業印刷の目的として使わ

れ始めました。これを芸術として昇華させたのが、《キャンベルスープの缶》(1962年)を手がけたアンディ・ウォーホル(1928－1987)です。ウォーホルの登場により、アメリカのポップアート画壇は開花し、シルクスクリーンは新たな版画技法として用いられるようになりました。

銅版画、木版画、リトグラフは紙でなければ印刷が難しいのに対し、シルクスクリーンは平らであれば、布や板などにも容易に刷ることができます。また、原画を反転せず、描いた通りに刷れるのも特徴の一つです(絵参照)。

10月の博物館講座ではシルクスクリーンの体験会を行います(募集は10月1日(火)から)。初めての方でも簡単に楽しく刷ることができますので、ぜひこの機会に…!

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



企画展は折り返し地点を迎え、おかげさまで多くの方々に来ていただいています！半数の展示替えを行い、新たな岸本裕躬の世界観を感じられるかと思えます。後半も気を引き締めていきたいです！（久保田）